**Judenburg/ Austria/ ATSX Ice Cross Downhill World Championship**

日本の新人、アイスクロス決勝へ驚異の進出

広島市出身の鈴木雅仁は、アイスクロス・ダウンヒル・ワールドチャンピオンシップに2回目の出場、オーストリアで開催されたATSX 250で、驚くべきにも決勝に進出した。　彼がこのレースに出場したのはこれで2回目に過ぎない。横浜でのレッドブル・クラッシュドアイスでは、この35歳のレーサーにはまだ問題があり生じ、71位に終わっっているが、2回目の出場にしてベスト４に残った。

このスケート最速のスポーツの20年近い歴史で、このように彗星のような出場を決めたアスリートは初めてだ。

しかも鈴木は決勝のスタートで飛び出し、何度も優勝経験あるカナダのカイル・クロクソールとオーストリアのルカ・ダルラーゴをびっくりさせたが、その後ベテランに順位を譲ることになった。

「今は4位になり、ただただ嬉しいです。」とレース後、鈴木は語った。　強風、雪、そして凍てつく気温の中、22か国からの130人のレーサーと組織運営委員会は苦戦を強いられた。

彗星のごとく現れた新人はこれですべてのワールドチャンピオンシップ・ツアーに参戦することを決意。この冬にも仲間と日本でアイスクロス を組織しようという意気込みだ。

最高タイムを収めたのは、米国の世界チャンピオン・アマンダ・トランゾと地元ヒーロー・ルカ・ダルラーゴ。レース・コースは420メートルで、一部は天然のトボガン・トラックが組み入れられており、どちらの決勝戦も接戦となった。トランゾが破ったのは、カナダのミリアム・トラパニエとオーストリアのヴェロニカ・ウィンチュ。ダルラーゴはカナダのカイル・クロクソールとロシアのゲルマン・ティトフを負かした。

**男性部門成績：**１．ルカ・ダルラーゴ（オーストリア）　２．カイル・クロクソール（カナダ）　３．　ゲルマン・ティトフ（ロシア）　４．鈴木雅仁（日本）　５．ミルコ・ラティ（フィンランド）

**女性部門：**　１．アマンダ・　トランゾ（米国）　２．ミリアム・トレパニエ（カナダ）　３．ヴェロニカ・ヴィンチュ（オーストリア）　４．アナイス・モライス（スイス）　５．マルゴルツァータ（ポーランド）

無料写真：リサマリア・ライター/リメックス・イメージ